

新城市・柿下遺跡

地元説明会資料

2009年2月7日

愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
国際文化財株式会社
中日本高速道路株式会社豊川工事事務所新城東工事区
新城市建設部高規格道路課
新城市教育委員会文化課

掘立柱建物が
見つかったワン!



ぶん太

鎌倉時代や
江戸時代の焼き物
が出ただニャー



まいニャン

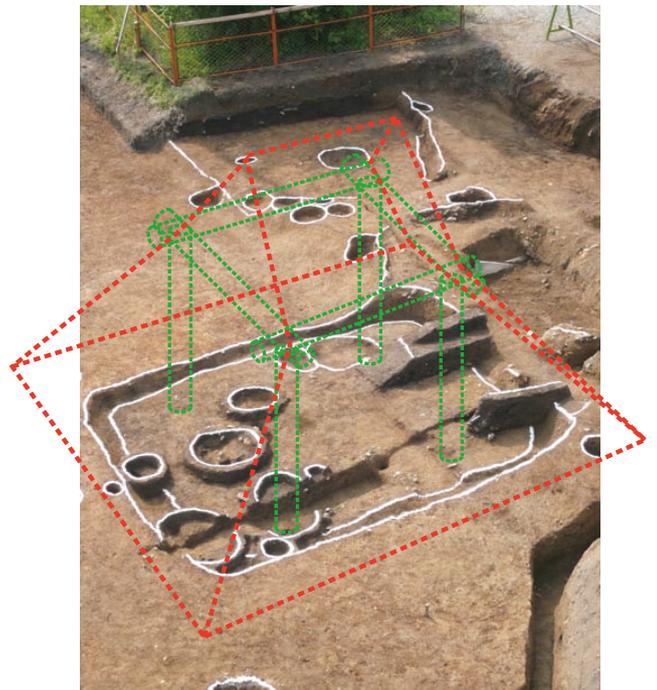
茶臼山と柿下遺跡を西側からみる

1 柿下遺跡は茶臼山(城山)のふもとにある

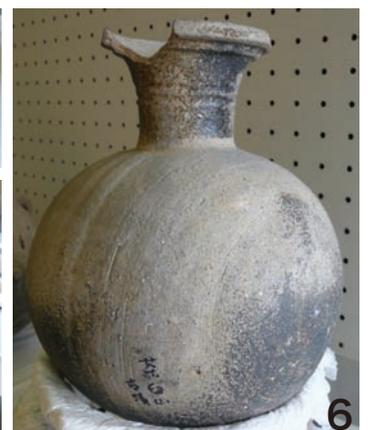
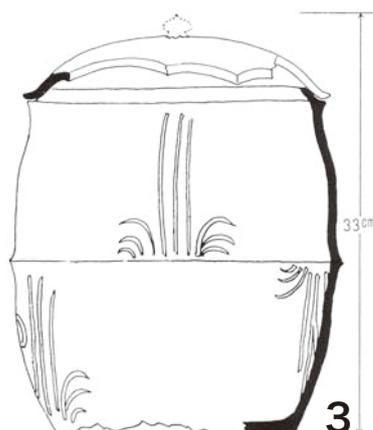


2 茶臼山とその周辺の遺跡

茶臼山の東には弥生・古墳時代の集落跡(吉竹遺跡)や、石器と中世陶器が出土した北下遺跡があります。山頂には中世の経塚(城山経塚)があり、南東斜面には古墳時代後期の古墳群(茶臼山古墳 1~3号墳)があります。柿下遺跡の西側の山林は「寺山」と呼ばれ中世の瓦が採集されています(屋川遺跡)。

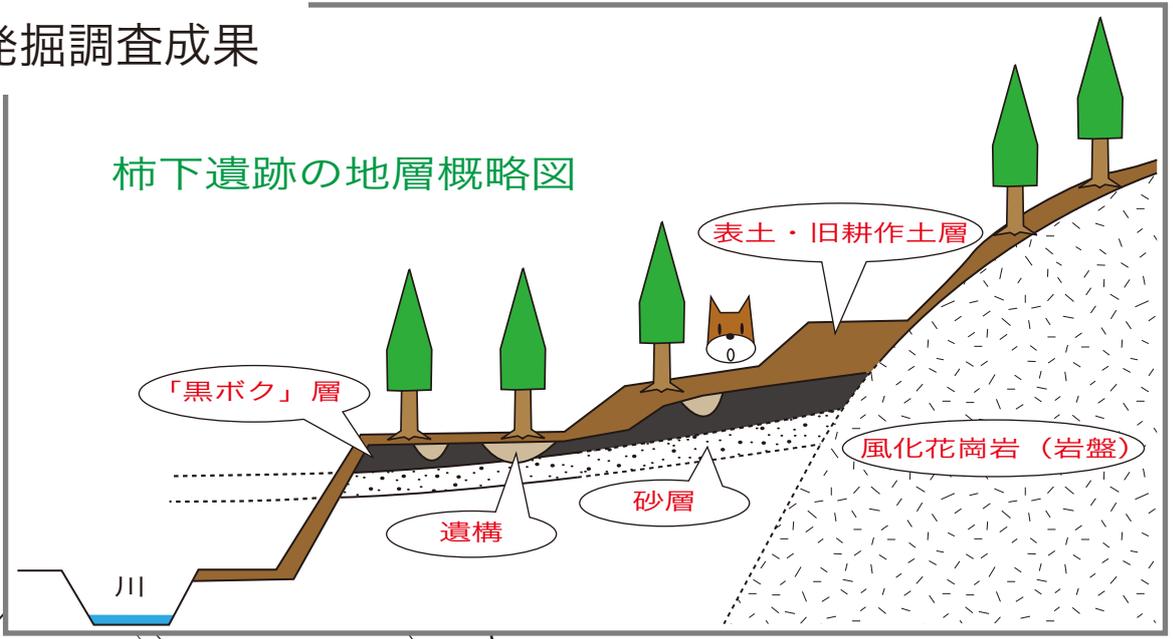


- (写真)→1 吉竹遺跡弥生時代後期の竪穴住居
↓2 北下遺跡出土磨製石斧
↓3 城山経塚出土陶製経筒
↓4~6 茶臼山古墳群出土須恵器



3 柿下遺跡の発掘調査成果

柿下遺跡の地層概略図



08Ba区
(2月中に調査実施)

今、掘ってるだニャー



08Bb区

1

2

竪穴住居

掘立柱建物



2 竪穴住居跡 (鎌倉時代)

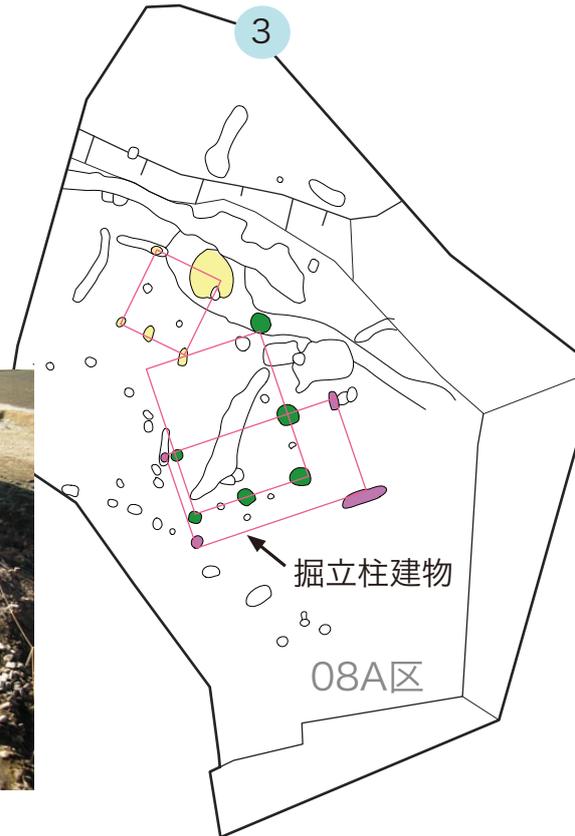


1 周溝のある掘立柱建物跡



(調査メモ)

周溝のある掘立柱建物は、鎌倉時代の竪穴住居と同じ向きであることから、同じところに建てられたと推測されます。その他の掘立柱建物はこれらより新しい時代の可能性もあります。



3 08A 区全景



4 出土した生活道具

柿下遺跡では、主に中世から近世にかけての土器や陶器などが出土しました。種類は皿（さら）・碗（わん）・甕（かめ）・内耳鍋（ないじなべ）などで、日常食器や煮炊きするものとして使われていたものです。お茶を飲むのに使ったと思われる天目茶碗や茶釜の破片なども出土しました。その他では、刃物を研いだと思われる砥石（といし）や石製の斧で、表面を磨いて作ったと思われる磨製石斧（ませいせきふ）が出土しました。



山茶碗
(やまじゃわん)



皿類



天目茶碗
(てんもくちやわん)



内耳鍋
(ないじなべ)



砥石
(といし)



磨製石斧
(ませいせきふ)

5 用語の説明

- ・ 竪穴住居 穴を掘りこんでつくった半地下式の住居や倉庫です。
- ・ 堀立柱建物 穴を掘り込んで柱を建ててつくった住居や倉庫です。
- ・ 山茶碗 平安時代中頃から戦国時代（11世紀～16世紀）にかけて作られた高温焼成された陶器類。主に皿や碗が作られました。主な産地としては現在の豊田市・瀬戸市・多治見市周辺です。
- ・ 内耳鍋 室町時代（15世紀）以降煮炊きに用いられた内側に耳（穴の開いた部分）を持つのが特徴。三重県を除く東海地方に広く一般的に見られます。